

# 福祉サービス第三者評価

〔令和5年度〕

## 評価結果報告書

株式会社MIRATZ  
MIRATZ三郷中央第一保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業運営方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く女性をサポートし、子どもがいても安心して働ける社会に寄与する価値ある組織を創造する</li> <li>・未来を担う子どもたちのために「AtoZ（何から何まで）お任せいただける組織を創造する</li> <li>・地域の子育て家庭をサポートするために有益な情報交流・発信の役割を担う組織を創造する</li> </ul> <p>（理念）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来の希望に向かって発展</li> <li>・向上する明るい元気な子どもを育む・心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと強制する子どもを育む</li> <li>・みんなを親しみ愛し、太陽のように温かい心を持った子どもを育む</li> </ul> <p>（方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な環境の中で一人一人の育ちに寄り添い豊かな愛情を持って応答的に接する</li> <li>・様々な経験を通して豊かな感性を育む・家庭との連携を大切に、お子さまの成長を共に見守る</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもたちが真ん中にある保育 子どもたちがいつもにこやかな・微笑ましい・しなやかなお大人たちに囲まれている愛ある丁寧な保育 大人たちと子どもたちがいつも横並びの保育 大人たちも子どもたちも心動く保育 大人たちも子どもたちも互いに尊重し合う保育 大人たちも子どもたちもほっとできるいつもリビングルームにいるような保育（園） 大人たちも子どもたちも互いに感謝・お蔭様・お互い様を忘れない気持ちの良い真心の保育（園）</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>国家資格を持つ専門家として常に学びを忘れず、向上心を持ってほしい 公私を大切に、様々な経験・体験を通し心動く創造・瞬間・ひらめき力を培ってほしい 社会情勢・地域情勢に関心を寄せ、保護者や地域に必要とされる施設運営の一端をになってほしい</p>

調査対象	保育園に通っている園児16世帯16人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。		
利用者総数	16		
利用者家族総数(世帯)	16		
共通評価項目による調査対象者数	16		
共通評価項目による調査の有効回答者数	13		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	81.3		

**利用者調査全体のコメント**

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」69.2%、「満足」30.8%の計100.0%であった。  
 自由意見では、「先生皆さんが子どもたちのことをよくみていただけていると思います、また園も清潔に保たれているように思います。」「先生皆さんが皆明るい、色々な活動を取り入れてくれている。」「クラス担任の先生だけではなく、園全体で子どもの状況を把握してくださっている事で、こちらの保育園に預けることができ良かったと思います。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもの保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「整理整頓」「接遇」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中12問が80%以上の支持を得ている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	11	1	0	1
「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は7.7%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	12	0	0	1
「はい」の回答は92.3%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	2	1	0
「はい」の回答は76.9%、「どちらともいえない」の回答は15.4%、「いいえ」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	2	0	1
「はい」の回答は76.9%、「どちらともいえない」の回答は15.4%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	1	0	2
「はい」の回答は76.9%、「どちらともいえない」の回答は7.7%、「無回答・非該当」の回答は15.4%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	7	5	0	1
「はい」の回答は53.8%、「どちらともいえない」の回答は38.5%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	3	0	0
「はい」の回答は76.9%、「どちらともいえない」の回答は23.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学希望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリー1の講評			
<p>法人ホームページには園の基本情報とともに、保育への姿勢が分かりやすく掲載している</p> <p>園の基本情報については、市のホームページ「保育施設一覧」を通して、入所対象年齢や現在の空き状況などを掲載している。また、開園時間や詳しい保育情報に関しては、法人ホームページから利用希望者がいつでも収集することができる。法人全体で目指す理念・目標・子育て支援活動なども掲載されており、園の目指す保育の在り方の情報発信に努めている。園パンフレットは、行政窓口や近隣の公共施設(プラザや公民館)などに設置され、自由に持ち帰れるようしている。希望需要があるため、年度ごとに約100部、行政へ補充用として送付をしている。</p> <p>丁寧な見学対応に努め、地域に園の取組を知ってもらえるようにしている</p> <p>見学に関しては、主に園長が対応している。ホームページや電話などで予約を受け付けており、希望時間帯を伺いながら日程調整をしている。外国籍家庭に対しては、携帯の翻訳機能を利用しながら、その国の言葉で説明を行っている。主に1組ずつ対応しているが、希望時間により2組が重なることもあるため、その際には家庭間の良いご縁となるように図っている。未就園家庭に向けて、保育園体験や給食試食会などを開催している。園外掲示板やSNSで情報発信を行い、園内行事の参加から本園への入園希望に繋げられるように努めている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリ-2の講評			
<p><b>入園説明会にて重要事項説明と保育内容の周知を図り、利用契約を交わしている</b></p> <p>4月入園予定の保護者には、3月中旬頃に入園説明会を開催している。クラスごとに実施し、概ね3組の家庭に向けて、園長が「重要事項説明書」や「園のしおり」を用いて説明を行っている。園生活の過ごし方については、クラス担任が子どもたちの様子を交えながら、入園後のイメージを持てるように伝えている。保育サービス内容の理解を促し、各同意書を通して、適切に了承を得ている。在園家庭に対しては、進級時に「進級園児保護者会」を実施し、改めて保育内容の理解と周知を図っている。入園準備品については、見本を掲示して知らせている。</p> <p><b>安心できる慣れ保育を促進し、温かいサポートと柔軟なスケジュールに配慮している</b></p> <p>入園面接や説明会で慣れ保育の進め方に関する説明を行っている。個々の慣れ具合により、多少日数は異なるが、約2週間の基本期間が設けられている。保護者の就労状況に応じて、柔軟に対応できるように配慮しながらスケジュールを確認している。新入園児の安定を図るために、保護者と職員が和やかな関係性であることをアピールしたり、無理に子どもを引き離さずに安心するまで保護者に寄り添ってもらったりしている。慣れ親しんだ持ち物の持ち込みに関しては、要望があれば個々に対応し、家庭の生活リズムや環境を急激に変えない保育を心掛けている。</p> <p><b>退園・卒園に対する円滑なサポートに努め、未来への継続的な繋がりに期待したい</b></p> <p>途中退園の子どもに関しては、クラスでお別れ会を行いながら見送っている。退園者の家庭には、任意でアンケートの回答を依頼し、意見を今後の保育運営に役立てている。2歳児が卒園する際には、保護者を交えた卒園式を開催し、終了証と写真入れのプレゼントを渡している。在園期間中の身体測定記録などは保護者に返却している。卒園後の連携園へとの繋がりに関しては、未設定であるため、保護者が10月中旬頃に再選考の手続きを行っている。サービス終了後の支援の継続性が厳しい状況であるが、可能な範囲での転園へのサポートに期待したい。</p>			

サブカテゴリ3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		
確認済み	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		
確認済み	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		

### サブカテゴリ3の講評

#### 個々の成育歴や生活状況などを把握できるしくみを整え、保育に反映させている

子どもの成育歴をふまえて個々の状況に沿った支援をしていけるように、入園時には、家庭状況や健康状況、食事状況、既往歴などを詳しく記入してもらい、面談で細かな情報を把握しています。入園後も、個人日誌や健康日誌(日々の生活記録)などの書式を整えて個々の心身状況や生活状況を丁寧に記録・共有している。保護者の意向や相談、質問などに関してもきめ細やかに把握できるように日々のコミュニケーションを深め、面談やアンケートなどの体制も整えて保育に反映させている。

#### 目標や日々の振り返りがその後の保育に有効に反映されるように書式を工夫している

保育所保育指針と法人の保育理念・方針・目標を反映した全体的な計画を基に、各種年間指導計画を綿密に策定し、月間指導計画や週案・日案は連動した書式を活用することで保育計画を日々の生活に反映しやすいように工夫している。個別計画は、一人一人に合わせた月の目標を立て、援助して成長した部分、翌月に向けた取組を記載するなど、子どもの成長を共に喜びあえるようにしている。指導計画は、クラスだよりや連絡帳で伝えているが、今後、積極的な週案の掲示や個別目標の提示などに期待したい。

#### 生活グループの担当職員を中心に、多角的な観点から子どもを支援している

1・2歳児クラスでは、少人数で構成する生活グループを作って担当職員を配置しており、個々の計画や記録はこの職員を中心に進めている。また、クラスに関わる職員や給食職員も交えた職員会議や給食会議を実施し、多角的な観点から必要な支援を考えていけるようにも配慮している。個々の連絡帳や職員間の連絡事項などは電子連絡システムを活用して共有体制を整えている。保育日誌にはエピソードを中心に記録をしていくことで個々の姿を具体的に共有できるように工夫し、行事会議でも様々な課題や子どもの姿が共有されている。

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>共感と尊重を心掛け、子ども一人一人の気持ちを大切に保育に努めている</p> <p>「子ども一人一人を尊重する保育」の考え方に関しては、外部講師を招いた研修を実施し、職員間での共通理解を図っている。園全体で、大人の都合で保育をしない生活を大切にし、子どもを一人の人として尊重しながら「子どもからの発信をとめない関わり」を心掛けている。子どもに寄り添い、子どもの気持ちに共感していくという考えが職員間に浸透しており、子どもの姿を捉えながら適切な保育援助に努めている。園内研修では、裁判の事例を用いながら人権擁護について再確認し、職員間で不適切な保育が無いように、自らの保育の振り返りに繋げている。</p> <p>プライバシー保護に努めているため、より丁寧な声掛けからの支援にも期待したい</p> <p>入園時に「個人情報使用同意書」と「災害給付制度加入について」の同意書を保護者から受け取っている。また、「掲載承諾書」を通して、園内掲示板やイベント開催時における写真・映像上映の使用許可を確認している。掲載期間に関しては、入園から10年間として定めている。子どもの排泄や着替えのサポートにおいては、外部から見えない場所(保育室内・手洗い室の一角)などで行っている。今後は、プライベートゾーンに関する学びに繋げるために、正しい着替えの手順や子どもへの声掛けを行ってからの衣服の着脱・おむつ交換などの配慮に期待したい。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		
サブカテゴリ6の講評			
<p>業務改善のための具体的なアイデアを提供し、創造性と問題解決能力を高めている</p> <p>当園では、手引書等に定めた基本事項や実施手順等が組織内に浸透し、実践に活かされるよう努めている。園のしおりは、保護者とのコミュニケーションツールとして日常的に活用されている。児童福祉施設における業務継続ガイドライン、保育所における感染症対策ガイドライン、不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き、保育所における自己評価ガイドライン、教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインなど、各種ガイドラインは職員間で共有され、日々の業務に反映されている。</p> <p>各種ガイドラインによる業務への反映と共有されている</p> <p>MIRATZガイドラインは、施設全体の運営と管理における基準として機能している。スタッフは上述のガイドラインも含めて理解し、それに従って業務を遂行している。これらの取組により、本施設では手引書等を日常的に活用し、その内容が組織内に浸透し、実践に活かされている。今後もこの方針を維持し、さらなるサービスの向上を目指している。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>緩やかな小グループ制保育の実施や子どもを主体においた保育環境の設定に努めている</p> <p>緩やかな小グループ制保育を11月から導入し、新たな保育展開を試みている。1・2歳児クラスを月齢によって2グループに分けたことで、それぞれが自分の遊びに集中できるようになり、噛みつきや引っ掻きなどのトラブルが減少することにも繋がっている。クラスや子どもの今の姿から保育室の物的環境の見直しを図ったり、棚類を部屋の壁側に移動して保育室を広く使えるように工夫したりしている。職員は、子どもたちが自由に歩き回りながら好きな場所で遊びこめるような室内環境のデザインに配慮し、個々に寄り添う声掛けに努めている。</p> <p>多様な文化に触れる機会を設け、互いの個性を理解し合える保育を展開している</p> <p>地域の言語交流研究所の催し物を通して、外国文化を知り、言葉や人種の違いを超えて何語を話す人も受け入れられる豊かな心と言葉を育めるようにしている。また、季節の行事食を味わう中で、異文化への興味・関心に繋がる言葉掛けを行っている。特別な配慮が必要な子どもに関しては、安心して通ってもらえるように、送迎時の体調確認や個別配慮事項、装具の確認などを日々丁寧に行い、家庭との連携に努めている。また、クラスの中で共に成長できるように、職員配置を工夫し、細やかな対応に努めている。</p>				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(0000)

評価	標準項目
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている

評価項目2の講評

情報共有と継続的なケアに努め、家庭との連携を図っている

保護者から送信されたWEB連絡帳の内容や登園時のやり取りを通して、家庭での子どもの様子を把握している。また、日々の連続性を意識し、前日の健康状態や怪我、週末の体調の変化などに留意しながら視診・触診を行っている。受け入れ担当職員が小さな傷などに気づいた際には、その場で保護者に確認するようにしている。保護者からの連絡内容については、保育日誌やクラスノートに記入し、職員間の情報共有に役立っている。降園時には各家庭へ今日の子どもの姿、エピソードなどを添えながら対応することを心掛けている。

家庭と園との「24時間保育」を念頭に掲げ、個々に寄り添うサポートに努めている

排泄の自立支援に関しては、小グループ制保育の中で個々のタイミングに寄り添った声掛けをしたり、促したりしながら担当保育士が丁寧に援助している。また、それぞれの発達過程に応じた言葉かけや明るいトイレ環境の設定に配慮している。保護者には、子どもたちが着脱しやすい衣服の準備を依頼している。職員は、家庭ごとの着替え方に沿った着脱の援助をしており、子どもが自ら着替えたいと感じながら取り組める雰囲気大切にしている。「24時間保育」という考えのもと、保護者と園が連携を図り、子どもの生活リズムの安定を図っている。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評		
<p><b>安全な空間での異年齢交流を図り、良い刺激が個人の成長へと繋がっている</b></p> <p>保育室の棚類を壁側に移動したことで、室内から死角がなくなり、子どもが個々に興味関心のある場所で安全に遊ぶことができている。1・2歳児が同じ広い保育室空間で過ごしており、自然な形での異年齢交流や協同遊びへと繋がっている。1・2歳児の成長過程における集団活動への芽生えを大切に、保育者が優しく誘い掛けながら、小集団で同じ遊びを楽しめるようにしている。また、生活や遊びの中で、簡単な約束を子どもたちに繰り返し伝えている。共同遊具で遊ぶ際には、順番を守ったり、譲り合ったりできるように援助し、心の成長を育んでいる。</p> <p><b>言葉の成長を引き出したり、感触遊びを展開したりしながら表現力の育成を図っている</b></p> <p>保育者からの応答的な関わりや信頼できる大人が常に傍で見守っている環境から、子どもたちは安心感を得ながら、発声や喃語で自分を表現している。絵本の読み聞かせや職員との個別の関わりを通して、言葉に対する感覚を育んでいる。氷遊びやフィンガーペインティングなど、様々な造形遊びを保育に取り入れており、子どもたちは冷たい・柔らかい・くすぐったいなどの感触を体感しながら制作を楽しんでいる。感触に敏感な子どもには保育者が寄り添い、取り組み方を工夫しながら、本人の意思で触れられるようにしている。</p> <p><b>子どもたちは散歩や栽培を通じて四季を感じ取り、自然物や生き物への関心を高めている</b></p> <p>本園には園庭が無いため、天候が良い日には積極的に近隣の公園や土手などへの散歩に出かけている。子どもたちは、個人の散歩バックをもって園を出発し、公園で見つけたどんぐりや草花を収集しながら散歩を楽しんでおり、自然物への興味を広げている。職員は、散歩先の公園や町の彩りの変化などを通して、四季の移り替わりを子どもたちに伝えている。ホームセンターへの散歩の際には、メダカや小動物の店内コーナーを廻り、生き物の可愛さや生態に関心が持てる機会に繋げている。玄関先や野外テラスを活用して、季節の野菜栽培も行っている。</p>		

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	

評価項目4の講評

様々な行事は工夫を凝らして取り入れ、日本の伝承や季節感を伝えている

行事は、その時期の季節を感じ、伝統文化に触れる貴重な体験と考えている。子どもの日、七夕、お月見、新年お楽しみ会、豆まき、ひなまつりなど、伝統や伝承の意味を伝え、こいのぼりや笹飾りなどの季節の行事に関する制作や歌、絵本を楽しんでいる。クリスマス会では、保護者と一緒に短冊やオーナメント制作、歌や踊りなどの演奏を披露している。それぞれの行事の意味をパネルシアターやペープサートなどでわかりやすく子どもに伝えている。

ともだちと一緒にいろいろな行事に参加し、楽しさを共感している

保育参加を行い、手遊びや体操、劇遊び、音楽に合わせて音を奏でるなど、ともだちと一緒に楽しんでいる様子を保護者に見て貰っている。いろいろな行事に参加する中で、ともだちと一緒に楽しさを感じ、共感することを園は大切にしている。

行事への取り組みを積極的に保護者に紹介し親子イベントを実施している

保護者には親子参加が行事に多いため、子ども同士でやり遂げるという観点ではなく、親子で挑戦するというプログラムを組んでいる。親子参加行事に着眼点をもち、丁寧な子育て支援に取り組んでいる。保護者には、親子縁日遊び行事計画書や親子遠足行事計画書を配布して保護者会で説明し、行事前にはさらに詳細な内容を配布している。行事に取り組む子ども達の様子は親子遠足写真などの活動報告で配信し、親子で参加しながら保護者同士の交流もねらいにしている。行事の内容では親子で楽しめたり雰囲気を楽しむように立案している。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	

評価項目5の講評

子どもの様子に合わせて、保育時間が長くなる中でも安心して過ごせるようにしている  
長い時間の保育の疲れなどに配慮し、夕寝が必要な子は静かな部屋へ移動するなど一人一人の様子、生活リズムに配慮し保育している。保育室には寝転んでも痛くないマットを敷き横になってくつろげる家庭的な雰囲気を大切にした環境を作っている。他の子どもが帰っていく様子を見て不安になる子どもには、気持ちを受け止め寄り添うことを心がけている。子どもの好きな絵本や心のよりどころになる玩具などを用意してゆっくり関わり、お迎えまでの時間を安心して過ごせるよう配慮している。

保育形態の変化に合わせて子どもが安全に楽しく遊べるよう環境を整えている

子どもの状態や時間によって合同保育となるため、異年齢で過ごす保育となった時には、細かい玩具などの誤飲や机や椅子など危険に繋がるものについては除去し、職員の配置人数に気を付けて保育を行っている。それぞれの年齢に合わせた無理のない保育内容を考え、ゆっくり落ち着いて過ごせる遊びを提供している。パズルや絵本、シール貼りや自由画など、子どもが自分のペースでゆっくり遊べるように環境を整え、子どもの感情や気持ちに寄り添った保育を行っている。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
確認済み	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	

評価項目6の講評

子どもが落ち着いて楽しく食べることを大切にした雰囲気作りを行っている

保育室を活動スペースと食事のスペースとに分けてゆっくり食事が取れる環境を作っている。保育士と一緒に楽しく食べる雰囲気作りを行っている。食事のはじめと終わりに「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をし、食事のマナーを伝えている。自分で食べたい気持ちや一人で食べられるようになった姿を大切に、食事の補助や「おいしいね」「上手にできたね」など子どもの意欲を引き出す声掛けをして楽しい雰囲気作りを行っている。完食にはこだわらず子どもの適量やその日の体調を考慮し楽しく食べることを大切にしている。

子どもの体調やアレルギーに配慮した食事の提供を行っている

子ども一人一人の好みや食事量を把握し、体調の変化が見られた場合には子どもの状態に合わせて柔軟に対応している。アレルギーのある子どもについては、入園面接時にアレルギーについて確認し、食物アレルギー対応マニュアルに沿って対応している。また、保護者との面談や栄養士による食事介助で咀嚼の状況や量などを把握し、個々に応じた切り方や硬さで食事を楽しみにできるように配慮している。初めて食べる食材は家庭で試してもらい、咀嚼を促す食品も提供している。

メニューや盛り付けを工夫し、子どもが食に興味や関心がもてるよう食育を行っている

栄養士が毎日各クラスをまわって子どもの喫食状況を確認し記録を取っている。子どもたちの好みや食事の形状はどうかなどを確認し、献立の立案や提供方法に反映させている。献立は月に2回のサイクルで作成しており、誕生日会や行事の時には特別メニューとして行事食の提供をしている。でんでん虫プレートやお星さまゼリー、お月見で行事献立を決める給食など子どもが喜ぶ様々な工夫をしている。夏野菜の栽培や食材の皮むき、おにぎり作りなど様々な食育を行い、食に対しての興味関心に繋げている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評		
<p><b>職員間の連携や学びを深め、子どもの健康を守る体制を整えている</b></p> <p>入園時の聞き取りや定期的な健康診断で個々の健康状態を把握し、特別なケアが必要な場合には、職員間の連携を深めて専門医の診断書に基づく対応を行っている。また、園長はアルコールの残量を調べて子ども達の消毒状況や手洗いのタイミングなどを確認し、職員に対してもクラス間の行き来にも消毒を徹底するよう指導している。さらに、食物アレルギーや嘔吐処理、AED研修や不審者訓練など、子ども達の命を守る為の学びを深め、各クラスに保健関連の簡易マニュアルを配備して、緊急時に迅速に対応できる体制を整えている。</p> <p><b>園の取り組みや保護者にも必要な情報を積極的に発信し、共通理解を深めている</b></p> <p>乳幼児突然死症候群に関する知識を保護者と共有して子どもを見守っていく為に、1・2歳児クラスの保護者の見えやすいところにポスターを掲示したり、懇談会などで園での午睡チェックや具体的な対策などについて説明している。園内で感染症が疑われる子どもが出た場合には、他児と接触しない部屋を用意しており、感染症が流行した際には、保育室の換気や消毒の習慣化と共に、手洗いうがいの徹底、園独自のマニュアルも作成して、関連する情報がある際には緊急連絡用のメールも活用して保護者に迅速に伝えている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評		
<p><b>各家庭とのコミュニケーションを大切にしながら、サポート体制を整えている</b></p> <p>入園面接時に、それぞれの家庭事情や保護者の就労状況を把握し、園での保育時間を各家庭と確認している。土曜保育に関しては、基本的に就労証明が確認できた家庭を受け入れている。土曜保育が必要な家庭に対しては、週初めまでに申し込みの提出を依頼している。登降園の際には、職員からの気持ちの良い挨拶を心掛け、積極的に保護者へコミュニケーションを図りながら子どもの成長を共有している。また、個人面談では保護者の子育てに関する不安や喜びを丁寧に拝聴し、園での事例を交えながら子育てのヒントとなるような提案に努めている。</p> <p><b>園内イベントへの参加を保護者に呼び掛け、見える保育を推進している</b></p> <p>年間予定表を年度当初に配布し、保護者が予定を立てやすいように配慮している。親子参加の行事に関しては、1・5か月前に園だよりを通して周知を図り、積極的に参加してもらえるように呼び掛けている。11月を保育参加(保育体験)月間として設定しており、一日一組限定で、それぞれの希望日を伺いながら約一か月間、実施している。当日は、朝おやつや散歩・自由遊びなどを予定し、子どもの園での様子や友だちとの関わり方などを間近で見学してもらっている。SNSを利用した保育の見える化にも努め、保育方針や保育活動などの理解を促進している。</p> <p><b>心温まる懇談の機会を図り、世帯間の交友に繋げている</b></p> <p>徒歩での親子遠足や親子縁日遊び、クリスマス会など、親子で参加する行事を多く設けているため、その中で保護者間の交友を図っている。また、年2回のクラス懇談会を実施しており、参加者には、くじ引きでグループに分かれてもらって自己紹介や子育ての悩みの共有などの対話に繋げている。1・2歳児クラスの保護者がクラスの垣根を越えて親交を深めている。和やかな時間になるように、園長が飲み物の差し入れを行いながら適宜保護者に声を掛け、懇談会を見守っている。感染症対策を講じながら、保護者同士で交流できる機会が定期的に設けられている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p><b>地域資源の活用を大切に考え、積極的に取り組んでいる</b></p> <p>当園では、1・2歳児が職員以外の人と交流できる機会を大切にしている。その一つが、地域の高齢者福祉施設との交流や、地産地消のパン屋さんやケーキ屋さんとの交流を通じて、自分たちの成長につながっている。これらの活動は、子どもたちの社会性を育て、地域とのつながりを深める役割を果たしている。さらに、言語で遊ぼうヒップファミリークラブでは、多様な言語環境に触れることで、国際感覚を養っています。これらの活動を通じて、子どもたちは新しい視点を持つことができ、自分たちの世界を広げることができる。</p> <p><b>当園の子どもたちと地域の人々との交流を深める取組が積極的に行われている</b></p> <p>当園では子どもたちが職員以外の人と交流できる機会を積極的に提供しており、育児相談や園で遊ぼう、親子縁日遊び、お月見会、春雨遊びなどを通じて、園は子どもたちが地域の人々と交流する機会を提供し、地域との絆を深めることに努めている。これにより、保護者同士の交流が生まれ、子どもたちの成長と地域の人々との交流を深めている。また、秋の収穫を祝うお月見会を開催し、地域の人々を招待したり、季節の移り変わりを感じることができる。春の訪れを祝う春雨遊びを開催し、地域の人々と一緒に春の訪れを感じ、新たな季節の始まりを祝っている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
確認済み	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
確認済み	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>保育園におけるリスクマネジメントの意図の共有について今後の取組に期待している</p> <p>保育の中で特にリスク高い地震や火事などの災害、大規模災害、不審者等の対応は年間計画を立て訓練を行っている。年間計画で立てた避難訓練や不審者訓練は、計画的に様々な状況を想定して(時間・状況・想定される内容)対策をするための訓練を行っている。園内の事故や感染症については事故簿に記入で起きた事の詳細や医療機関の受診やり取りについて記録している。事故簿は記録を職員間で周知し、保育内容の見直しや改善策の検討及び再発防止を行っている。これからも、より一層のリスクをマネジメントする取組に期待している。</p> <p>行動規範と人権擁護の理解と自己反省を通じた質の高い保育への取組が行われている</p> <p>利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないように、会社のMVV及び保育士の行動規範について職員会議や職員の個人面談等で話し、考えを問いかける機会や人権擁護の外部研修などで自己の行動を振り返る機会を設けてより良い保育へと繋げている。一人一人の考え方や価値観、認識の仕方が違う事があると意識し、お互いの話を聞いたり考え方を聞く事を大切にしている。職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している。</p> <p>苦情解決と虐待防止への取組として、保護者の声を聴くことを重視している</p> <p>苦情解決については重要事項説明書に内外の相談窓口を記載し保護者に説明を行い、掲示もされている。当法人及び園では保護者への対応を重視しており、アンケートや意見箱も含む様々な方法で保護者からの意見等を聴き取るようにして、クレーム対応マニュアルに沿っての解決を図るように努めている。虐待への対応については虐待対応・防止マニュアルに従って年間計画を策定しており、内外の研修受講、定期的なチェックリストでの確認や話し合い、他県の情報や報道によるニュースなどを参考にしながら、自己点検による注意喚起や確認を行っている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル①	ホームページやInstagramを活用し園の情報をわかりやすく発信している	
内容①	園はホームページやInstagramを活用し、誰でもいつでも見られる方法で園の情報を発信している。Instagramを毎週更新し、子どもたちの日常の様子や行事の様子、食事風景や地域との関り、運動遊び、自然体験、友達と関わる様子など、子どもたちの実際の様子や表情で伝えることを大切にしている。こうした取組は園の利用希望者の特性を考慮したわかりやすい情報発信となっており、また、保育園の様子を広く伝えるものとして、保育で大切にしていることや子どもが豊かに育つ環境の大切さを社会に発信するものとなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目		
タイトル②		
内容②		

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	本施設では、地域資源を活用し、子どもたちが世代を超えて人との関わりを持つことができる環境を提供している
	内容	当園は地産地消のパン屋さんやケーキ屋さんとの交流を通じて、子どもたちは地域の食文化に触れ、地元の食材を使った商品理解する機会を設けている。また、ハロウィンの交流や普段の買い物体験や高齢者サロンや福祉施設との交流を通じて、地域社会とのつながりを深めている。高齢者施設で子どもたちはハロウィンの交流やゲーム遊びを一緒に行うことで楽しい時間を共有し、互いの存在を尊重し合う関係を築いている。これらの取組を今後も続け、子どもたちが豊かな人間性と社会性を育む環境を提供している。
2	タイトル	子どもの一日の生活を考慮したオープンスペースの工夫と、環境構成の見直しとして担当制を導入している
	内容	園では「主体的に遊ぶための環境構成と保育士の役割」をテーマに継続的に取り組み、棚等で仕切ったオープンスペースで1・2歳児の子どもたちが遊ぶ空間への配慮と玩具の工夫をしてきた。人的環境として1・2歳児は小グループの緩やかな担当制を取り、子どもが安定した保育者との関わりの中で、クラスを越えて行き来して好きな場所で遊べるようにしている。慣れ保育以後は担当制により、保護者に代わり決められた保育士が、食事や排泄、着替えなどの育児を行っている。慣れ保育期間は親子で園の雰囲気や子どもへの職員の関わり方を見てもらっている。
No.		今後の課題と思われる点
1	タイトル	子どもの発達・成長段階を共有しているが、生活習慣の自立に向けた保育者の言葉がけ、援助の方法等についての創意工夫が期待される
	内容	保育園として1・2歳児の子どもへの預かりを行っている。園では1・2歳に分かれて保育を行い、年間・月間・週の保育計画や個別指導計画等を作成している。職員会議では子どもの発達について把握しながら、成長段階の共有を行っている。発達・発育をおさえた着替えやトイレトレーニング、食事等の生活習慣の自立を促すため、保育者の言葉がけや手を出さずにできるようになるための援助の方法などが行われているが、養護と教育のバランスを意識した自主性を促すための取組に期待したい。
2	タイトル	リスクの影響を事前に予測し、事後に最小化する対策を講じているが、リスクを適正、円滑に管理するための取組に期待したい
	内容	リスクマネジメントとしてリスクの特定及びリスク対策する優先順位をアセスメントする考えのもと、地震、風水害による避難訓練の計画を立案している。このような自然災害による緊急事態に備えたBCPなどを策定している。十分な対策になっているかを検証するためにも、危険予知能力訓練なども行いながら危機意識をより一層高め、ヒヤリハットの意識レベルをさらに高めてほしい。そして、リスクの優先順位が高いものから対策を講じるため優先順位が低いものは何も対策しないという考えもある。円滑なリスク管理を行い、リスクの評価につなげてほしい。